3. 各学科カリキュラム（第一主専攻科目）の説明

（1）英語学科カリキュラム（英語学科生の第一主専攻）

【必修科目】

1・2 年次で履修する以下の科目によって構成され、全てクラス分けされています。合計 16 単位。

① English Skills A-1・A-2（1 年次生対象、4 単位）、English Skills B-1・B-2（2 年次生、4 単位）
週 2 回行われるこの講義は、様々なアクティビティを通じて、英語「で」考え、発信し、議論できるアカデミックな英語運用能力の向上を目指します。

② English Composition A-1・A-2（1 年次生、2 単位）、English Composition B-1・B-2（2 年次生、2 単位）週 1 回行われるこの講義では、学術論文を執筆するための基礎的な論文作法や研究方法について学びます。2 年次生では長めの論文作成（2000-3000 単語）にも挑戦します。

③ Cultures of the English-Speaking World 1・2（1 年次生、4 単位）
週 2 回行われるこの講義では、主に英語が公用語とされている地域の文化についての基礎知識を身につけるとともに、プレゼンテーションやディスカッション能力の向上を目指します。

【選択科目】

選択科目は必修科目とは異なり、自分の興味関心に沿って講義を選ぶことができます。合計 20 単位。

① **［英語圏基礎科目］**（2 年次生、4 単位）
本科目群は、英語圏に関する歴史や文化、また言語そのものに関する研究の基礎知識を身につけることを目的としています。2 年次に、4 単位分の講義を履修してください。本科目群から 4 単位以上取得した場合は、他の科目群（「英語・英語圏研究科目」や「その他」など）に算入することはできません。

② **［英語・英語圏研究科目］**（［3・4 年次英語科目］からも履修可能。16 単位）
英語運用能力の向上や英語圏に関する知識を深めます。選択した研究コースとの相乗効果を考えながら受講すると効果的です。また、国際教養学部が開講する科目も履修できるので、ぜひ挑戦してみてください（ただし、国際教養学部開講科目の履修には所定の手続きが必要です）。

＊②を履修にするにあたっての注意事項＊

・講義によって履修年次が異なるので、注意してください。
・一部の講義は、研究コース（例：北米研究コース）の「コア科目」として履修できます。英語学科の「選択科目」として履修した場合は、研究コースの「コア科目」としては算入できません。また、逆の場合も同じですので、履修時に注意して選んでください。

	1 年次	2 年次	3・4 年次
必修科目	English Skills A-1（春・2 単位） English Composition A-1（春・1 単位） Cultures of English-Speaking World 1（春・2 単位） English Skills A-2 （秋・2 単位） English Composition A-2（秋・1 単位） Cultures of English-Speaking World 2（秋・2 単位）	English Skills B-1 （春・2 単位） English Composition B-1 （春・1 単位） English Skills B-2 （秋・2 単位） English Composition B-2 （秋・1 単位）	
選択科目		［英語圏基礎科目］から履修（4 単位） American Studies 1, 2, Topics in Linguistics A, B, 英文学講読 1,2 など	
	［英語・英語圏研究科目（［3・4 年次英語科目］を含む）］から履修（16 単位） Cultural Psychology 1,2, Intercultural Interaction 1,2, American Women’s History 1,2, English Conversation 1A,1B,2A,2B, Creative Writing 1,2, Development of Japanese Civilization 1*, 2*など		

*国際教養学部開講科目のため、所定の手続きが必要

(2) ドイツ語学科カリキュラム（ドイツ語学科生の第一主専攻）

【必修科目】

① 1年次

・「基礎ドイツ語Ⅰa-1」「同Ⅰa-2」（週2回、各2単位）：初級文法。

・「基礎ドイツ語Ⅰb-1」「同Ⅰb-2」（週4回、各4単位）：実践的なドイツ語運用能力の養成。

② 2年次

・「基礎ドイツ語Ⅱa-1」「Ⅱa-2」（週2回、各2単位）：中級文法＋読解による文法応用力の養成。

・「基礎ドイツ語Ⅱb-1」（春学期・週6回、6単位）：在外履修に備えた実践的なドイツ語運用能力養成。

・「基礎ドイツ語Ⅱb-2」（秋学期・週2回、2単位）：実践的なドイツ語運用能力の養成。

③ 「ドイツ語圏研究A」「同B」「同C」「同D」（週1回）：ドイツ語圏の文化・社会・思想・政治・言語などの基礎知識を学び、各分野の諸問題について考える。併せて、在外履修の準備講座も実施する。

【選択科目】3・4年次

① 「ドイツ語Ⅲ」:「話す」技能を伸ばす「表現A・B」と「聞く」技能を伸ばす「聴解A・B」。各2科目（各1単位、合計2単位）を選択。「聴解A-1」、「聴解A-2」のように各科目の1，2の履修が望ましい。
在外履修でドイツ語Ⅲの単位を修得した学生も受講し、単位(学科科目その他)を修得できる(上限あり)。

② 「専門読解準備コース」:「言語」「思想・文化」「政治・社会」に関する専門文献を読解する能力を養成する（各1単位、合計4単位)。

③ 在外履修・交換留学から戻った学生は、「日独比較研究」科目（履修要覧参照）の中から4単位履修し、ドイツ語圏からの留学生とともに各分野の日独比較研究を深めていく。とくに第二主専攻（副専攻）科目を履修し（導入科目・コア科目)、演習にも参加して、卒業論文を執筆することが望ましい。(研究コースと、第二主専攻か副専攻かの登録作業は留学先からLoyola上で行う。

☆ドイツ語学科の在外履修制度

2年次秋学期(半年間)にドイツ語圏の協定大学に語学留学して単位が認定されるドイツ語学科独自の制度。原則として条件を満たす者は全員留学する。1年次終了時にドイツ語圏の留学先の大学を選定する。在外履修終了後に引き続き交換留学や一般留学を半年間・1年間続けることもでき、合計で最大1年半の留学が可能（ドイツ語圏への交換留学は在外履修が前提・ドイツ語既習者を除く)。在外履修の参加条件：1年次秋学期のドイツ語Ⅰa-2とb-2の成績が「C」以上、2年次春学期のドイツ語Ⅱa-1とb-1を修得し、かつドイツ語圏研究A,B,C3科目のうち2つまでを修得していること。また、在外履修や交換留学から戻った学科生は、ドイツ語学科に留学するドイツの協定大学からの留学生と一緒に授業を受け、日常的な交流を図ることが可能である。

【在外履修協定校】（2019年1月現在)

ヴュルツブルク大学、エアフルト大学、デュイスブルク・エッセン大学、ニュルンベルク経済工科大学、バンベルク大学、ブレーメン州立経済工科大学、ベルリン自由大学、テュービンゲン大学、ベルリン工科大学、ボン大学、フライブルク大学、ヴィアドリナ欧州大学、トリアー大学、ハンブルク大学、ミュンヘン大学、バイロイト大学、ザールラント大学、ハレ＝ヴィッテンベルク大学、ハイデルベルク大学、ルートヴィヒスハーフェン大学、パーダーボルン大学、ロストック大学、アイヒシュテット大学、グラーツ大学、ケルン大学、デュッセルドルフ大学

【在外履修により認定される科目と単位：合計10単位】

「基礎ドイツ語Ⅱa-2」「同Ⅱb-2」（各2単位)、「ドイツ語圏研究D」(2単位)、「ドイツ語Ⅲ」(4単位）の合計最大10単位が修得可能である。成績は在外履修最終試験（ケルンオフィスか四谷キャンパス）で決定する。加えて、以下のように最大で4単位の追加修得が可能である。

・在外履修中の講義・演習科目→「研究コース科目（コア科目)」または「学科科目（その他)」の2単位に充当可能。

・春季休暇中の留学先での語学の授業→「学科科目（その他)」の2単位に充当可能。

★以下のサイトに在校生向けＱ＆Ａも含めた詳しい説明があるので、そちらも参照のこと
(http://dept.sophia.ac.jp/fs/international/ryugaku/zaigai/)

(3) フランス語学科カリキュラム（フランス語学科生の第一主専攻）

★【基礎フランス語Ⅰ-1＋同Ⅰ-2：12 単位】(必修) ＋【基礎フランス語Ⅱ-1＋同Ⅱ-2：12 単位】(必修)
＋【総合フランス語Ⅲ/Ⅳ：8 単位】(選択) ＋【フランス語圏基礎科目 A〜D：8 単位】(必修)
→これらの科目を修得しなければならない

★基礎フランス語の評価について

○基礎フランス語Ⅰ及びⅡは学期ごとの授業全体に対して一つの評価及び 6 単位の単位付与が行われる

○基礎フランス語の再履修：「Ⅰ-1」「Ⅰ-2」「Ⅱ-1」「Ⅱ-2」の順に修得しなければならず、それぞれ不合格（評価 F）となった場合は再履修となる。

【基礎フランス語科目】1〜2 年次に基礎力を身につける（1 回 100 分授業×6 回／週）

1 年次：基礎フランス語Ⅰ-1（春 6 単位）＋基礎フランス語Ⅰ-2（秋 6 単位）

○週 6 回のうち 4 回は「コミュニケーション」、2 回は「文法」の授業

▸「コミュニケーション」：聴く、話すを中心に総合的なアプローチで行われる授業

▸「文法」：基礎的な文法力を身につける授業。

○「コミュニケーション」は 3 グループ（ABC）、「文法」は 2 グループ（XY）に分かれる

○ネイティブ教員と日本人教員がチームを作ってそれぞれ授業を担当

○使用教科書：Berthet et al., *Alter Ego +A1*, Hachette, 2012 / 山崎吉朗ほか『とことんフランス語―フランス語文法のレシピ』朝日出版社、2012 年。

2 年次：基礎フランス語Ⅱ-1（春 6 単位）＋基礎フランス語Ⅱ-2（秋 6 単位）

○週 6 回のうち 3 回は「コミュニケーション」、3 回は「専門研究へのフランス語」の授業

▸コミュニケーション：聴く、話す、読む、書くの 4 技能のさらなる向上を目指す授業

▸専門研究へのフランス語：社会学、言語学、哲学、経済学といった専門分野に関わる教材を使いながら、基礎力の強化をはかる授業

○「コミュニケーション」は 3 グループ（ABC）、「専門研究へのフランス語」は 2 グループ（XY）に分かれる

○ネイティブ教員と日本人教員がチームを作ってそれぞれ授業を担当

○使用教科書：Berthet et al., *Alter Ego +A1*, Hachette, 2012 /Barthélémy et al., *Zénith 3. Méthode de français B1*, CLE International, 2013 / M.-P. Caquineau et al., *Les 500 exercices de grammaire B1*, Hachette, 2005.

【総合フランス語科目】3〜4 年次に実践的な運用能力を身につける（1 回 100 分授業）

3 年次：総合フランス語Ⅲ（春 3 単位＋秋 3 単位）： 4 技能を実践的なレベルに伸ばす

▸表現演習Ⅲ：現代フランスの政治や社会に関する資料を使って、「話す」「書く」力を伸ばす

▸聴解演習Ⅲ：芸術、文化、文学等に関するニュースや批評などを資料に「聴く」力を伸ばす

▸講読演習Ⅲ：政治、歴史、文化等に関する資料を使って、「読む」力を伸ばす

4 年次：総合フランス語Ⅳ（春 1 単位＋秋 1 単位）

▸総合演習Ⅳ：多様なテキストや映像を用いながら、それぞれのテーマについてのレポート、プレゼン、ディスカッションを行うことを通して、フランスの現代社会に関する理解を深めるとともに、高度なフランス語の運用能力を獲得する

▸特別演習 S：留学帰国者など上級者向けの授業。「総合演習Ⅳ」の代わりに履修することもできる

【フランス語圏基礎科目】原則として 1〜2 年次に修得すること（各科目 2 単位ずつ合計 8 単位）

▹フランス語圏研究 A（1 年次春学期）：フランス語圏の歴史と文化に関わる教養を獲得する

▹フランス語圏研究 B（1 年次秋学期）：フランス語圏の政治と宗教に関わる諸問題を考察する

▹フランス語圏研究 C（2 年次春学期）：フランス語圏の社会と経済に関わる諸問題を考察する

▹フランス語圏研究 D（2 年次秋学期）：学科教員の専門研究を紹介。各分野のエッセンスに触れる

（4）イスパニア語学科カリキュラム（イスパニア語学科生の第一主専攻）

イスパニア語学科の学生は、第一主専攻必修科目として、①イスパニア語を習得するための語学科目と、②イスパニア語圏に関する基礎知識を学ぶイスパニア語圏基礎科目を履修します。

①イスパニア語語学科目

＜1 年次＞

「基礎イスパニア語Ⅰ」（計 6 単位）は、基礎的な文法を学びつつ「読む」「書く」能力の養成を中心とした「基礎イスパニア語ⅠA-1」（春学期）「基礎イスパニア語ⅠA-2」（秋学期）（週 4 コマ、4 単位）と、「聞く」「話す」力を身につけることに主眼を置いた「基礎イスパニア語ⅠB-1」（春学期）「基礎イスパニア語ⅠB-2」（秋学期）（週 2 コマ、2 単位）とに分かれて開講されています。両方に合格すると「基礎イスパニア語Ⅱ」に進むことができます。

＜2 年次＞

「基礎イスパニア語Ⅱ」は、文法事項をより詳しく学びつつ、より高度な「読む」「書く」力を養成する「基礎イスパニア語ⅡA-1」（春学期）「基礎イスパニア語ⅡA-2」（秋学期）（週 4 コマ、4 単位）と、より自由にイスパニア語で「聞く」「話す」ことができるようになることを目指す「基礎イスパニア語ⅡB-1」（春学期）「基礎イスパニア語ⅡB-2」（秋学期）（週 2 コマ、2 単位）とに分かれています。両方に合格すると「総合イスパニア語」に進むことができます。

＜3・4 年次＞

「話す・聞く」「読む」「読む・話す」「書く」「読む・書く」といったスキル別に毎学期 7 科目開講されている「総合イスパニア語」（各 1 単位）から、2 年間で 8 単位を修得します。各自が強化したい分野を選択して履修し、イスパニア語の運用能力をさらに高めます。卒業するまで常にイスパニア語に触れていてほしいという考えから、4 年次で最低 2 単位を履修するという条件があります。

②イスパニア語圏基礎科目

イスパニア語が話されている地域について知るための科目群です。「イスパニア語圏研究入門」では、イスパニア語圏についての基礎知識を得るとともに、大学で学習、研究を進めていく上で必要なリテラシー、スキルを身につけます。「西米概史」「西概史」では、どの研究コースを選択するとしても、すべての研究の前提となるイスパノアメリカとスペインの歴史を学びます。「西・西米文学史」については、なぜ文学史？と疑問に思うかもしれません。しかし、スペイン、イスパノアメリカの文学は、イスパニア語圏の文化、社会、政治などあらゆるものを写し出す鏡であることから、イスパニア語学科では伝統的に文学史の授業を必修としています。

	1 年次	2 年次
春学期	イスパニア語圏研究入門	西概史*
秋学期	西米概史*	西・西米文学史*

＊のついた科目は、イスパニア語学科生は研究コース科目として履修することはできません。

(5) ロシア語学科カリキュラム

① 第一主専攻科目

【基礎ロシア語科目】

「基礎ロシア語Ⅰ-1」「同Ⅰ-2」「同Ⅱ-1」「同Ⅱ-2」は，週 6 回の授業からなり，各 6 単位である。

1 年次生向けの「基礎ロシア語Ⅰ-1」「同Ⅰ-2」は，「総合」（週 3 回），「会話」（週 2 回），「文法」（週 1 回）の授業に分かれており，各授業の担当教員は異なる。また，「総合」と「会話」は，複数のクラスに分かれて少人数クラスで授業が行われ，春学期と秋学期で担当教員も交代する。

2 年次生向けの「基礎ロシア語Ⅱ-1」「同Ⅱ-2」は，「ドリル」（週 2 回），「会話」（週 2 回），「講読」（週 2 回）の授業に分かれており，各授業の担当教員は異なる。なお，週 2 回の「講読」は 2 人の教員によってそれぞれ個別に授業が進められる。また，「ドリル」と「会話」は，複数のクラスに分かれて少人数クラスで授業が行われ，春学期と秋学期で担当教員も交代する。

テキストは，「基礎ロシア語Ⅰ-1」「同Ⅰ-2」の「総合」と「文法」は同一のテキストを使用するが、「会話」は個別のテキストを使用する。「基礎ロシア語Ⅱ-1」「同Ⅱ-2」は「ドリル」「会話」「講読」とも、それぞれ個別のテキストを使用する。

◆評価と再履修

「基礎ロシア語Ⅰ-1」「同Ⅰ-2」および「同Ⅱ-1」「同Ⅱ-2」に対する評価および単位付与は，「総合」「会話」「文法」および「ドリル」「会話」「講読」の全体に対して一括して行われる。

「基礎ロシア語Ⅰ-1」「同Ⅰ-2」「同Ⅱ-1」「同Ⅱ-2」は，順番に履修していかなければならない。不合格となった場合には再履修となる。

【ロシア語圏基礎科目】

「ロシア・ユーラシア文化入門 1」「ロシア・ユーラシア地域研究入門 1」は，ロシア語圏の文化・社会についての基礎知識を，「ロシア地域研究方法論」は，ロシア語圏の学習･研究に必要なリテラシーやスキルを学ぶ。

【ロシア語研究科目】

3･4 年次生向けロシア語研究科目から 6 科目 12 単位を履修することがロシア語学科の卒業要件となっている。なお，「ロシア語通訳法入門」は「基礎ロシア語Ⅰ-2」の単位を修得していなければ、またその他のロシア語研究科目は，「基礎ロシア語Ⅱ-2」の単位を修得していなければ履修することができない。各選択科目の内容やテキスト等については，シラバスを参照のこと。

ロシア語学科開講科目一覧

	履修年次	学期	科目名	単位
第一主専攻科目				
必修科目	基礎ロシア語科目			
	1	春	基礎ロシア語Ⅰ-1	6
		秋	基礎ロシア語Ⅰ-2	6
	2	春	基礎ロシア語Ⅱ-1	6
		秋	基礎ロシア語Ⅱ-2	6
	ロシア語圏基礎科目			
	1	春	ロシア・ユーラシア文化入門 1	2
		春	ロシア・ユーラシア地域研究入門 1	2
		秋	ロシア地域研究方法論	2
選択科目	ロシア語研究科目			
	2	秋	ロシア語通訳法入門	2
	3･4	春	ロシア語文法研究1	2
		秋	ロシア語文法研究2	2
		春	ロシア語翻訳基礎研究1	2
		秋	ロシア語翻訳基礎研究2	2
		春	ロシア語翻訳研究1	2
		秋	ロシア語翻訳研究2	2
		春	ロシア語表現法	2
		春	ﾛｼｱ語ｱｸﾃｨｳﾞ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1	2
		秋	ﾛｼｱ語ｱｸﾃｨｳﾞ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	2
		春	ロシア語原書講読1	2
		秋	ロシア語原書講読2	2
		1Q	現代ロシア語研究1A	1
		2Q	現代ロシア語研究1B	1
		3Q	現代ロシア語研究2A	1
		4Q	現代ロシア語研究2B	1
		春	ロシア語文献研究A-1	2
		秋	ロシア語文献研究A-2	2
		1Q	ロシア語文献研究B-1A	1
		2Q	ロシア語文献研究B-1B	1
学科科目〔その他〕				
選択科目	1	春	ロシア語オーラル・レッスン1	2
		秋	ロシア語オーラル・レッスン2	2
	2～4	春	ロシア語科教育法A	2
		秋	ロシア語科教育法B	2

②学科科目〔その他〕

第 1 主専攻科目とは別にロシア語学科が開講する学科科目として， 2～4 年次生向け教職科目「ロシア語科教育法 A」「同 B」などがある。

（6）ポルトガル語学科カリキュラム（ポルトガル語学科生の第一主専攻）

【基礎ポルトガル語科目の概要】

1 年次春学期・秋学期、2 年次春学期・秋学期の順に割り振られている「基礎ポルトガル語Ⅰ-1」、「同Ⅰ-2」、「同Ⅱ-1」、「同Ⅱ-2」は、第一主専攻の学びの根幹ともいえる、きわめて重要な必修科目です。ここで徹底的にポルトガル語の基礎力を鍛えます。それぞれ週 6 コマの授業からなり、いずれも 6 単位です。

「基礎ポルトガル語Ⅰ-1」は「文法」（週 2 コマ）、「会話・作文」（週 3 コマ）、「語彙・表現」（週 1 コマ）からなります。「文法」と「会話・作文」は複数のクラス*に分かれて授業が行われ、後者は主としてネイティブの教員が担当します。「基礎ポルトガル語Ⅰ-2」では、「語彙・表現」が「講読とダイアログ」（週 1 コマ）に入れ替わります。

「基礎ポルトガル語Ⅱ-1」は「会話・作文」（週 3 コマ）、「講読」（週 1 コマ）、「文法」（週 1 コマ）、「主題研究」（週 1 コマ）という構成になり、「主題研究」以外はやはり複数クラス編制となります。「会話・作文」は引き続きネイティブ教員が担当します。「基礎ポルトガル語Ⅱ-2」では「文法」が「速読」に置き換わります。

＊ 教員のサバティカルにより合同クラスとなる年度もあります。

【基礎ポルトガル語科目の評価と再履修】

「基礎ポルトガル語Ⅰ-1」、「同Ⅰ-2」、「同Ⅱ-1」、「同Ⅱ-2」の成績評価および単位付与は、それぞれを構成する授業ごとになされるのではなく、全体に対して一括して行われます。これらの科目は履修の順序が定められており、不合格となった場合には翌年度に再履修の上、合格するまでは上位科目の履修はできません。

【ポルトガル語圏基礎科目】

語学科目と並行して、1・2 年次にはポルトガル語圏の各地域を学ぶため基礎となる 5 科目（各 2 単位）が必修として設定されています。1 年次春学期の「ポルトガル語圏研究入門」では資料の探し方、レポートの書き方など学問のためのスキルを習得します。このほか、1 年次春学期から 2 年次秋学期まで順に「ポルトガル史」、「ブラジル史」、「ポルトガル語圏アフリカ史」、「アジアとポルトガル語圏」と履修していきます。これら 4 科目は、ポルトガル語圏の主要な国または地域ごとにその歴史や概要を学ぶことが目的です。

なお、「ポルトガル語圏研究入門」を除く 4 科目は、特定の研究コースの導入科目あるいはコア科目としても位置づけられていますが、ポルトガル語学科生はポルトガル語圏基礎科目として履修するため、これら科目の単位を研究コースの単位として算入することはできないので、注意してください。

【総合ポルトガル語科目】

3・4 年次の語学科目として、春学期に「総合ポルトガル語 A-1」～「同 H-1」、秋学期には「同 A-2」～「同 F-2」まで、合計 14 科目（各 1 単位）が用意されています。ポルトガル語での発表やディスカッションを行うものや、ポルトガル語文献の講読を行うもの、また題材もポルトガル、ブラジル、その他のポルトガル語圏に関するものなど、科目により内容は異なっているので、詳しくはシラバスを参照して確認してください。これらのなかから 8 科目（8 単位分）を修得することが必要ですが、自身の必要や関心に応じて履修する科目を選択することができます。ただし、履修者数の上限が定められている科目もあるので、履修希望者がそれを超過した科目については抽選等による調整が行われることもあります。また、8 単位のうち少なくとも 2 単位分は 4 年次で履修する決まりとなっているので、3 年次ですべての必要単位を修得してしまうことはできません。なお、3 年次で修得したものと同一の総合ポルトガル語科目を、4 年次で再度履修するといった重複履修も可能となっています。